

令和5年3月

**授業の手引〈授業事例編〉**  
**高等学校 地理歴史科・公民科**  
**(令和5年度版)**

**愛知県総合教育センター**

授業の手引<授業事例編>高等学校地理歴史科・公民科 (令和5年度版)

- 1 はじめに
- 2 研究員名簿
- 3 研究概要
- 4 授業事例

(1) 地理領域

- 事例1 単元名「世界各地の生活文化」(地理総合)
- 事例2 単元名「植民地支配の歴史と人々の生活の関わり-サハラ以南のアフリカと東南アジアの事例から-」(地理総合)

(2) 歴史領域

- 事例3 単元名「国民国家と明治維新」(歴史総合)
- 事例4 単元名「近代化が進む日本と東アジア」(歴史総合)
- 事例5 単元名「幕藩体制の動揺」(日本史探究)
- 事例6 単元名「恐慌と第二次世界大戦」(日本史探究)
- 事例7 単元名「イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成」(世界史探究)
- 事例8 単元名「中国帝政国家の成立、中央ユーラシアの動向、東アジア文化圏の形成」(世界史探究)
- 事例9 単元名「西ヨーロッパの封建社会とその展開」(世界史探究)

(3) 公民領域

- 事例10 単元名「国際経済の諸課題」
- 事例11 単元名「主として経済に関わる事項」
- 事例12 単元名「民主政治と私たち」

## 新学習指導要領の趣旨を踏まえた地理歴史科・公民科の授業の在り方の研究

## －発問と資料の読み取りを軸にした授業実践と学習評価の検討－

愛知県立横須賀高等学校長 蟹江 吉弘

本年度から年次進行で実施されている新しい学習指導要領では、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」が重視され、学校現場には、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じて、「生きて働く知識及び技能」「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性」等の新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実が求められています。

地理歴史科及び公民科では「地理総合」「歴史総合」「公共」の必履修科目と、そこで学んだ資質・能力を生かして、より広く深く探究する「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」「倫理」「政治・経済」の選択科目が設定されました。私たちは科目の目標や内容を理解して日々の授業を行うとともに、現行の学習指導要領でも課題とされてきた「社会的な見方・考え方」の養成についても意識して授業改善に努めなければなりません。「社会的な見方・考え方」は、地理歴史科、公民科の本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力、判断力の育成、生きて働く知識の習得に不可欠であるだけでなく、教科を超えて生徒の学習活動全般にわたる基本的な資質・能力に関わる力だと考えます。私たち地理歴史科・公民科の教員はこのことを心に刻んで授業改善に努める必要があると思います。

さて、令和4年度の本研究班では、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業の在り方を追究し、その成果を県立高等学校に発信することを目的とし、これまでの研究成果の上に「発問と資料の読み取りを軸にした単元構想及び授業実践案の作成」「単元における学習評価の検討」「G I G A スクール構想や個別最適な学びに対応した手法の検討」を研究テーマとして研究協議会を重ねてきました。

生徒が思考を活性化させ、「社会的な見方・考え方」を養うことのできるような良質の問いは、

生徒のなかに新たな問いを生み出し、生徒自らが問いを立てて探究を始めるきっかけとなります。また発問に対する答えを導き出す過程で、効果的に提示される資料は、正しい思考力、判断力の育成の大きな助けとなるでしょう。さらに、我々教師が、日々の学習活動や定期考査等で、適切な場面を捉え、適切な観点で、適切な評価を行うことができれば、生徒の学習意欲を一層喚起できると考えます。

本年度の研究では来年度以降を見据え、新科目の授業実践に加え、探究科目を現行科目の授業計画に取り込んで実践する研究も行いました。実践の手法としてICT機器を積極的に活用して「GIGAスクール構想」「個別最適な学び」への対応に取り組んだ研究もあります。

研究員は新科目の授業実践に手探りで取り組み、一人でも多くの先生方に役立つ資料を提供するために熱心に研究協議を重ねました。本研究が本県の地理歴史・公民科の授業改善及び評価方法等の参考となれば幸いです。